

【全国初】 「1秒でも早く・・・」 チーム西予で命を守れ
 ～過疎地域での新たな救急体制のカタチ～ (愛媛県西予市)

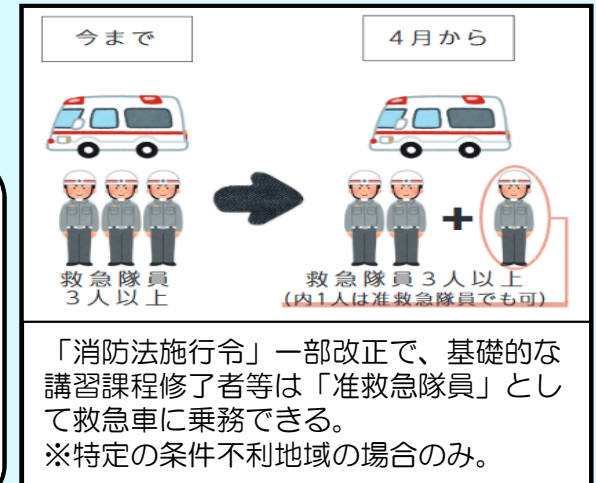
取組概要

休日夜間の救急空白時間となっている一部地域の24時間救急車運用に向け、救急隊運用の規制緩和の提案により、新たに定められた「准救急隊員制度」。限られた人材、厳しい市財政状況のなか、行政と消防が一体となり、この制度を準用した24時間救急隊運用を開始した。

人口 38,947人 (H30.1.1現在)
 担当 西予市消防本部防災課

取組の効果

- ・2つの救急出張所の24時間運用により、休日夜間における急病、事故等発生時の大幅な救急隊到着時間の短縮、地域住民の救命率の向上及び安心感につながる事が期待される。
- ・新規24時間救急出張所開設に伴う人件費、施設整備費は、一般行政職員及び任期付・再任用短時間勤務職員による増員、既存建物の改修等により財政負担を抑制した。



創意・工夫した点

- ・市全体の職員数削減により、行政職個々の業務負担が増えている現状であるため、一般行政職員の准救急隊員は、市行政業務に負担とならない間隔で、消防職員として24時間救急出張所で勤務する体制とした。
- ・准救急隊員を含む救急隊は、全国初の取り組みである。

他団体へのアドバイス

・全国の条件不利地域においては、救急出張所等を撤廃する地域が多くみられます。今回の規制緩和に伴い、一般行政職員等との協力による、地域救急医療体制のカタチの再構築について検討いただきたい。



「准救急隊員」の資格を有する一般行政職員は、市行政業務と併任して、平均週1日を24時間救急出張所で消防職員として勤務し、訓練、研修を定期的に行い、救急現場へ出動する。